

科目	作業療法総合技術演習	担当	飯塚 照史	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

本科目では臨床実践に必須の作業療法技術として、医療場面におけるコミュニケーションや医療倫理の理解を通じて、面接を含めた評価およびその解釈につき習得する。受講者は、①臨床実践上の倫理的問題およびジレンマにつき理解すること、②対象者の病態を踏まえた面接が出来るようになること、③様々な状況に応じて適切な評価が出来るようになること、を目標とする。これらにより臨床実習に臨むための知識、技術、態度を理解する。

【履修注意】

毎回出席を原則とする。本科目は臨床実践に臨むための総合演習となるため、これまでに習得した科目の知識が必要である。また、実技、実習に多く取り組む講義形態であるため、受講生の積極的な取り組みを望む。予定変更の場合もある。

【評価方法】

- ①客観的臨床能力試験(OSCE)
 - ②レポート、発表等に対する評価
 - ③出席状況(2/3以上の出席に満たない者は評価対象から除外する)
- ※①の合格を以て、②③を加えた総合的な評価とする。

【試験について】

・客観的臨床能力試験(OSCE)
再試験対象者の条件：OSCEによる評価が6割未満の者

【予習・復習】

総合力が求められるために関連科目の復習を徹底して授業に臨むこと。

【教科書】

書籍名：PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 著者：山口美和 出版社：医学書院

書籍名：PT・OTのための臨床技能OSCE：コミュニケーションと介助・検査測定編 才藤栄一監修 出版社：金原出版

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	医療コミュニケーション1	オリエンテーション・コミュニケーション概論
2	医療コミュニケーション2	病院・施設におけるコミュニケーション・医療倫理
3	医療コミュニケーション3	作業療法士に求められるコミュニケーション
4	医療コミュニケーション4	医療面接と問診・自己分析
5	医療コミュニケーション5	コミュニケーション分析1・会話分析
6	医療コミュニケーション6	コミュニケーション分析2・困難場面での対応
7	医療コミュニケーション7	コミュニケーション分析3・まとめ
8	対人援助技術1	自己の内面を知る1
9	対人援助技術2	自己の内面を知る2
10	対人援助技術3	対人援助と価値観
11	対人援助技術4	ブラインドウォーク
12	対人援助技術5	対人援助と信頼関係
13	OSCE1	OSCE概論
14	OSCE2	OSCEの模擬実践・面談
15	OSCE3	OSCEの模擬実践・検査測定や介助技術
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ